



年金総合研究所 ニュースレター

No.	Issopm-Press-A0004
発行日	2013年4月9日
編集	年金総合研究所広報

TOPIC

第2回 年金積立金運用フォーラムを開催

2013年3月4日(月)、第2回年金積立金運用フォーラムを開催致しました。年金総合研究所の中で行なうイベントとしては最大となる約30名にご参加いただきました。

今回の講演にお招きしたのは、カナダ・オンタリオ州公務員年金 (Ontario Municipal Employee Retirement System、OMERS)の幹部の方々です。

OMERSは、世界的な大手機関投資家です。特に機関投資家によるインフラ投資のためのグローバルなアライアンスの構築の分野での取り組みで知られています。

当日のテーマは、『カナダ・オンタリオ州公務員年金の資金運用動向について』と題し、“Jacques Demers氏”と“Andrew K. Fung氏”の2名にご講演いただきました。



■ Jacques Demers
- President and Chief Executive Officer,
OMERS Strategic Investments



■ Andrew K. Fung
- FSA, FCIA, CFA, Senior Vice President,
Pension Services and Chief Actuary,
OMERS

講演後の議論の中で関心の高かった、OMERSに関する3つのポイント

Point 1

OMERSはインフラ、PEその他のprivate marketを用いたインハウスでの運用を盛んに行う。
※これに必要な人的資源を確保できる限りは成功するだろうが、この仕組みの持続可能か。

Point 2

OMERSには、Boardが二つある（年金制度自体に関する決定を行うBoardと運用判断を行うBoard）という組織上の特徴がある。

Point 3

OMERSは、自らの加入者・受益者のための運用の他、他から運用委託を受ける業務も行う。

講演後も活発な議論・質疑応答が行われました

講演後は、様々な疑問や論点が挙げられ、活発な議論や意見交換が行われました。これらの質疑応答の一部をご紹介します。



受講者

インハウスで運用することで、コストに対して外部委託運用よりもはるかに高いリターンを上げているとのことだが、そのようなことがどうして可能なのか。有能な運用スタッフを繋留するには、他の運用機関並みの高い報酬が必要なのではないのか。

OMARS

いくつか理由がある。第一に、OMERSの報酬はさほど悪くない。第二に、外部委託するという事は、委託者（OMERS）のリスクで外部マネージャーが運用するという事だが、どちらが効率的かは自明だ。第三に、OMERSのような大きな、また、長期的な視点で投資する主体に勤務すると、民間の運用機関ではできない案件を手掛けることができる。これは大きな満足感を与えるので、優秀な人材が集まる要因になる。

受講者

インハウス運用の人的戦力が豊富なようだが、その戦力をどのように構築したのか。

OMARS

一挙に出来上がったのではない。90年代、財政に余力がない中での社会保障費用の増大に対処するために年金運用を活用しようという機運になった。

受講者

インフラ投資において、投資先の政府のリターン保証などがあるということだが、アングロサクソン諸国のような法治国家ばかりではない。そこはどうか対処するのか。

OMARS

その点は、判断に当然含まれる。南米諸国などには、案件自体としては有望なものがあるが、その国における法の支配の程度によって投資する、しないの判断が変わることはある。

受講者

Boardが二つあるということだが、これはカナダでは普通（common）のことか。

OMARS

一つのBoardは、掛け金と給付を決めるもので、労使の代表が半々で構成される。これに対し、運用判断をするBoardはfiduciary boardであって、メンバーは労使が半分ずつ決めるが、メンバーは労使をrepresentするものではなく、労使の利害を離れて、fiduciaryとして判断する。この仕組みは、OMERSがdeficitに陥った場合に生じる政治的な難問（hot potato）を州政府から離すという意図もあり成立したものの、オンタリオだけの仕組みということではないが、uncommonではある。

（続く）

受講者

private assetsのexitについては、どう考えているのか。

OMARS

インフラについては、2件のexitを行った。一つは、ある都市での鉄道案件だが、市庁と組んでやっていたところ、市庁が抜けることとなってOMERS持ち分も売却した。もう1件は、アルバータ州から米国に向かう石油パイプライン。操業に何ら問題はなかったが、昨今のシェールガス生産増大などのエネルギー情勢の変化を踏まえて判断した。

受講者

グローバルな大手の公的年金ファンドが、FM（フィデューシアリーマネジャー）として、自らの受益者以外の年金プランに対してもサービスを行っている、自分の年金プランだけを対象としていた時と異なり、受託資産額を増加しようといったビジネス面での考慮も必要となり、投資文化が変化するのではないかと。そのような状況をどう考え、OMERSは今後の投資をどう考えるのか。

OMARS

オランダやデンマークの公的ファンドのようなFMを目指しているわけではない。パートナー会社との関係を今後も強化していく

受講者

労使のリスクシェアは、労働者を説得しなければならない。どうやっているのか。掛け金を増やす、給付を減らす、いずれによっているのか。

OMARS

よく説明することに尽きる。ただ、労働者にリスクを負わせるといっても、過去の約束をたがえるのではない。DBである。リスクが現実になってしまったら、労使の負担を半々、掛け金増と給付減も半々で、その時点以降の発生分について対処する。



今後、当ニュースレターで取上げて欲しいテーマやご要望・ご意見などございましたら、年金総合研究所HPのお問い合わせフォームからお知らせください。

お問い合わせ先：<http://www.issopm.or.jp/contact/>

© 一般社団法人年金総合研究所 無断複製転載を禁じます。